

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	空飛ぶ三輪車・野口保育所
施設所在地	東村山市野口町3-7-3
法人名	特定非営利活動法人子ども自然探検隊空飛ぶ三輪車

1. 活動のテーマ

<テーマ>

生き物に触れる ①ザリガニの生態を知ろう

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

当園は日々、園バスを使用し野山に出掛け、自然に溶け込んで遊ぶ保育を行っている。行く先々で、子ども達は毎日多様な生き物に触れている。その身近な生き物たちに、年齢に応じてより興味関心を深められるよう探究活動を行いたいと考えた。

子どもたちが初夏～初秋にかけてもっとも触れ合う生き物のひとつにアメリカザリガニがある。捕まえることと飼育することが比較的容易で子どもたちは興味を持ちやすい。どんな場所にいるのか探しながら幼児が捕まえたものを小さい子も触れることができると考える。これまでも飼育してきたが、改めて生育環境や飼育方法を子どもたちと丁寧に調べ、子どもたちも自発的に飼育に関わっていけるようにしたい。

2. 活動スケジュール

6月～7月

①水路や川でアメリカザリガニを探し、網やエサを使ってザリガニ釣りを行う。

7月～10月ごろ②本を読みながらザリガニの生態や飼い方を調べる。条件付き特定外来生物に指定されていることも知り、飼い方に気を付けるようにする。大きい子はよく観察したりスケッチすることを通して、興味を深め探求する。

③ザリガニのことを知り、よりよい飼育環境を考えたり、毎日の世話を丁寧に行う。

④低年齢クラスの子もザリガニに触れてみる。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

・魚網 ・バケツ ・水換用ホース、水槽道具 ・蓋つき飼育ケース、エサ等
・画材 ・報告書作成用パソコン

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

- ①日にちや場所を変えながら3回ザリガニ捕りに出かけた。スルメを使ってザリガニ釣りをしたり、網を使いガサガサをして泥の中や葉の陰に隠れているものを捕まえたりした。ザリガニ釣りでは「どこに隠れているいるかな?」「あそこにいた!」捕まえるのが得意な子が他の子に「しっかり噛みつくまで待って…」と手助けしたり、隠れているザリガニをよく観察しながら諦めずに粘り強く捕まえようとする姿が見られた。
- ②③持ち帰ったザリガニを飼育ケースで飼い始めた。図鑑などで飼い方を確認した4, 5歳児が石を探してきて設置し、ザリガニの隠れ場所を作った。そのうち、小さいザリガニが共食いされて死んでいるのが見つかり「大きさを分けてあげよう」と飼育ケースを分ける試みが行われた。また調べていく中でシェルターとして落ち葉を使えることを知った子どもたちが、秋口に園周りの掃き掃除の時に集めた落ち葉を飼育ケースに入れてあげる姿が見られた。
- ④低年齢の子も幼児が捕ったザリガニに興味を持って頻繁に触れる姿が見られた。保育者が指が挟まれないように気を付けていることもあり、あまり怖がることなく指先でつつくように触れていた。

写真は3ページ目に添付

5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・2歳～5歳とその学年に応じた取り組みをしやすい素材だった。また、小さいうちから触れているとその特徴も自然と覚えて、指を挟まれないように持つことも大きい子の姿を見て学んだりできるようになった。中には慣れていなくて大きいザリガニを怖がっていた子もいるが、小さいものなら触れ慣れることができていた。
- ・ガサガサの他にもザリガニ釣りをしてみることで、生態や特徴を知ることによって興味をふかめてより真剣にザリガニの様子を観察したり、世話も積極的に行おうという姿が見られた。
- ・これまで飼育の中心は水替えなどの力作業や石の扱いがあるため幼児が担っていたが、ザリガニのシェルターとして落ち葉が使えることを知ってから、小さい子が飼育に関わる場面が増えた。

空飛ぶ三輪車・野口保育所

すくわくプログラム

2024 年度 活動報告 添付写真

生き物に触れる ①ザリガニの生態を知ろう

